

1年生の対面式を終え、6学年初めてそろった今週の朝会で、いじめゼロに向けた話をしました。九小の子どもたちが友達を大切にして、いじめのない楽しい学校生活を送ることを願っています。

低学年には、難しい言葉もありますが、5・6年生にも感想を書いてもらいましたので、保護者の皆様と主に中・高学年の子どもたちに読んでいただくよう、いくつかご紹介します。ご家庭でも、いじめをなくすためにできることについて、話題にしていただけたら幸いです。5・6年生の皆さん、たくさんの感想をありがとう。

<朝会で話した主な内容> テーマ：「いじめをしない・させないために」

相手がきずつく言葉を言ったり、なかまはずれにしたり、物をかくしたりするなど、人をつらく悲しい気持ちにさせることをいじめといいます。どんな理由があっても、決していじめはゆるしません。

いじめは、いじめられた人の心を深く、長くきずつけて、学校に来ることや生きることがつらくなり、時には命をうばってしまうこともあります。

校長先生をはじめ、先生たちは、もしもいじめを見つけたら、ぜったいにいじめられている子どもの味方になって、守り通します。第九小学校の皆（みな）さんは、自分とちがう考えや行動をする人がいても、一人一人自分と同じように世界中でたった一人の大切なそんざいだということを決して忘れないでください。

そして、いじめをしない、させないために、自分は何をするか、一人一人が考えてください。気になることがあったら、必ず友達やおうちの人や先生たちのだれかに知らせてください。

皆さんに、須永 博士（すなが ひろし）という人の「ともだち」という詩をおくります。

※詩の内容は、校長室の前に掲示（けいじ）します。

- 1 いじめを少しでもへらして、みんなが少しでも笑顔になれるように、一人一人がいじめをしないように心がけていきたいです。
- 2 いじめにあったら「やめて」と言ったり、ほかの人に知らせたりして、自分も友達もつらい思いをさせないようにしたいです。
- 3 友達にやさしくしてもらった時、人はうれしい気持ちになると聞いて、私も友達となかよくしようと思いました。おたがい何かあったらはげましあって、なかよくしたいです。
- 4 これからもいじめについて考えていきたいと思った。いじめを見つけたらすぐに止めるようにして、いっしょにいじめをしないようにする。
- 5 いじめられている人を助ける方法を何か考えなくなった。いじめ0スローガンは、いじめてしまう人の役に立つと思う。
- 6 いじめは、人の命をうばう場合があることを知り、おどろきました。だれかがいじめられているのを見たら、止めてあげたいです。これからも、友達を大切にしようと思いました。
- 7 いじめというのは、された側の人がすごく悲しくなるということを深く知った。いじめをしないようにする重大さを改めて知った。これからも、人を悲しい気持ちにさせない、いじめをしないように努力をしたい。
- 8 心に残ったことは、「どんな理由があっても人をいじめてはいけないこと」。これからも、相手をきずつける言葉を言わないようにしようと思った。何かあったとき、気になることがあったときは、先生や家の人などに伝えることが大事だと思った。
- 9 いじめは、人の心に深く長く残ると言っていた。だから、人の心にとって、マイナスなことは0にして、プラスなことをいっぱいしようと思った。いじめはぜったいにくさなければならないと思った。そのために、もしいじめを見つけたら、しっかり注意しようと思った。
- 10 いじめはぜったいにやってはいけない。友達をきずつける方ではなく、友達を大切にする側にならないといけない。